

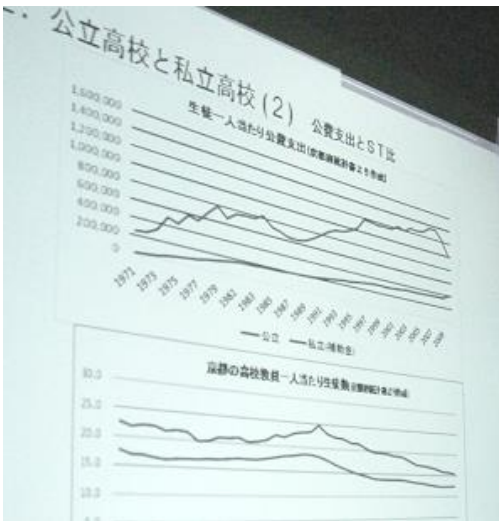
分類 番号	A7	取組 名称	京都府における高校学校制度の発展と私学の役割 —生徒数急減期における公私立高校の調和的発展をめざして—
研究代表者：	公共政策学部	職・氏名：	教授・吉岡 真佐樹
研究担当者：	<p>京都府立大学（公共政策学部 教授 吉岡 真佐樹、同 准教授 長谷川 豊）          外部分担者（京都高校制度研究会 代表 長谷川 庸作氏、洛星中学高等学校 教諭 児玉 英靖氏          同志社中学校・高等学校 教諭 鈴木 潤氏、京都産業大学附属中学高等学校 教諭 川西 宏和氏、          東海大学熊本教養教育センター 講師 瀧本知加氏）          協力者（京都府立大学大学院生 孫 群姍、井上 真求、増田 恵子、京都府立大学学生 川嶋 那津子）</p>		
主な連携機関（所在市町村、機関（部署）名）			
<b>【研究活動の要約】</b>			
<p>&lt;目的&gt;少子化による生徒減少が続き、公立高校再編の動きは全国に広がっている。本府でも丹後・口丹両地域における高校再編の具体的な検討が始まった。本研究は、高校が規模縮小する中でも高校教育の質的発展を可能にする手立てを、公立高校と私立高校の協働に着目して2年間で探求することを目的とする。</p> <p>&lt;調査・研究活動の概要&gt;</p> <p>1. 本年は分析・検討の基礎として①「公私立高等学校協議会」の経過と「あんしん修学支援制度」の効果・影響についての聞き取りや関係機関からの資料蒐集、②私学助成の現状と私学の取り組みについて、関係者からの聞き取り、③京都府教育委員会が高校再編の検討を始めた府北部私立高校の現地調査、を行った。</p> <p>2. これらをもとに13回の検討・分析の会議をもち、論文投稿を行い、『研究報告書IV』にまとめた。あわせて公開研究会「生徒数急減期における公私立高校の調和的発展を考える」を開催し、全国の私立学校の現状報告をもとに、生徒減少期における公立・私立の協働による高校教育の調和的発展の可能性を検討した。</p>			
<b>【研究活動の成果】</b>			
<p>1. 文部省が設置を要請した「公私立高等学校協議会」は「公立・私立双方の充実と、緊密な協力により公私協調して高校教育の拡充を図ること」を趣旨としていたが、本府が1978年に設置し継続されてきた同協議会は、高校生の公私配分の協議に終始してきた。生徒減少期の今、高校の規模縮小は避けられず、公立・私立それぞれの特徴を活かした役割分担と、中卒生が公立・私立関わりなく選択できるような条件など総合的な議論を「公私立高等学校協議会」で協調的に重ねることが求められている。</p> <p>2. この点では①1985年以降の公立高校の制度改革が「公私立高等学校協議会」で実質的論議がされないままに進められたことの改善、②府北部地域での高校統廃合検討に際して「公私立高等学校協議会」において当事者間の協議を行うこと、③依然残されている公私間の教育条件格差の改善、は緊急の課題である。</p> <p>3. 2010年度から京都府が導入した「あんしん修学支援」制度によって、公立私立を問わず学校を選択しやすくなり、私立高校入学者は以後増加してきた。この制度を事実上の私立高校授業料無償化政策ととらえ、日本における教育バウチャーとして解釈することの可能性について検証がなされた。公共サービスの供給に関する理論的検討を進め、きわめて先進的な取組みとして京都府の政策を評価できることが確認できた。</p> <p>4. 以上の課題を具体的・実践的に考察し、総合的な京都の高校教育政策を検討することが求められている。</p>			
<b>【研究成果の還元】</b>			
<p>2016年3月28日、公開研究会「生徒数急減期における公私立高校の調和的発展を考える」、参加者10名          2015年度ACTR報告書「京都私立高校研究(IV)」2016年3月（府大図書館で閲覧可）</p>			
<b>【お問い合わせ先】</b>		公共政策学部（研究科）	教授・氏名 吉岡 真佐樹
		Tel: 075-703-5344	E-mail: m_ysok@kpu.ac.jp

参考（イメージ図、活動写真等）

(1) 府北部私立高校調査（京都共栄高等学校）



(2) 公開研究会「生徒数急減期における公私立高校の調和的發展を考える」



(3) 研究報告書「京都私立高校研究IV」(2016年3月発行)

